



自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

こんなところに ニッポン IN モーリシャス

モーリシャスには路線バスが走っています。多くのバスの目立つところにはNISSAN（下写真赤枠内）と書いてありました。かなりカラフル…。本当に日産車かわかりませんが、日本車への信頼はこんな形でも示されるのだと少し嬉しくなりました。



近くの島国モーリシャス

～モーリシャスで出会った魅力を紹介します～

2019年はモーリシャスで新年を迎えました。ヨーロッパのリゾートとして人気の高いインド洋の島国モーリシャス。今回は私のアンテナに引っかかった魅力をお伝えします！

<モーリシャス本島～マダガスカルから飛行機で1時間半～>

*世界で2番目に古いシャン・ド・マルス競馬場



モーリシャスには世界で2番目に古い競馬場があります。（豆知識：日本で一番古いのは函館競馬場です。）残念ながらシーズン終了直後で閑散としていましたが、芝生のきれいさがシーズンの名残を感じさせました。芝生コースが途中で途切れて一部ダートになっていましたが、そういうものなのでしょう。開催の様子も見てみたいものです。

*年越しの様子

海岸沿いのリゾートホテル（高くて泊まれなかった）では年明けのカウントダウンが始まる前から花火を打ち上げます。海岸に行きそれぞれのホテルから上がる花火をたっぷり堪能しました。それぞれ好き勝手に打ち上げるので、次はどこから上がるかわからずビクビクしていたことは否めません（笑）



<ロドリゲス島～モーリシャスから飛行機で1時間半の離島～>

絶海の孤島かと思いきや、小さいながらもしっかり観光業を営む街がありました。本島からの渡航には外国人はパスポートの提示が必要です。

*ココ島

ロドリゲス島からボートで1時間ほどの所にある無人島。「ココ」はモーリシャスで話されているクレオール語で「卵」の意味。ココ島には4種類の鳥がおり、地面や木の上のあちこちに巣を作って卵を産み温めています。ツアーに申し込まないと行けませんが、透明度の高い海、青い空、白い砂浜だけの世界に浸れます。



*鍾乳洞のエンターテイメント

ロドリゲス島にある鍾乳洞のツアー。鍾乳洞の歴史や特徴などについて聞きながら巡るツアー…かと思っていましたが、岩を人や動物、物に見立てて見てまわりました。カップケーキ、フランス国土、バットマン…ガイドさんたちは常日頃から鍾乳洞を良く観察しています。